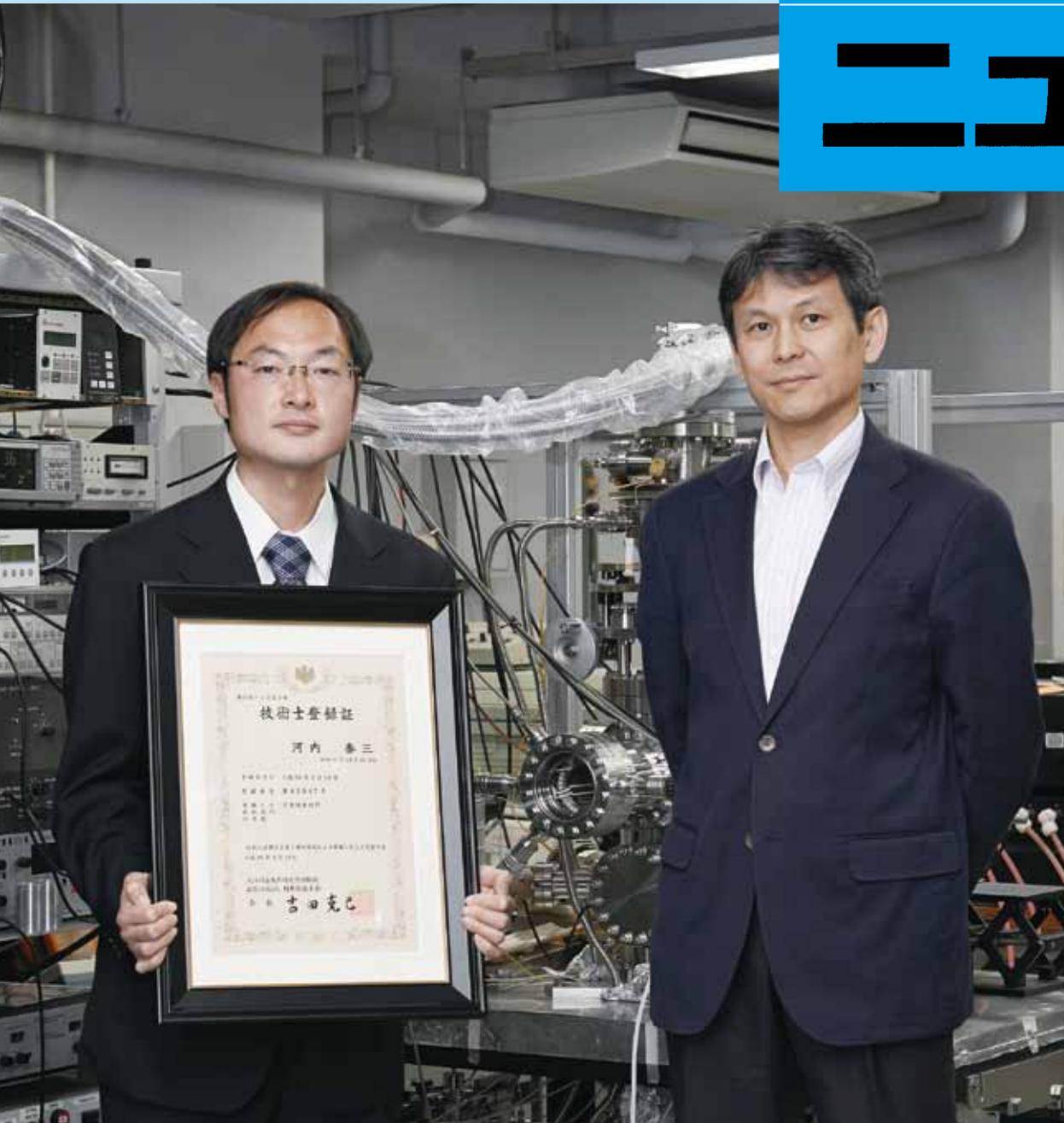


生研 ニュース

IIS NEWS
No.148
2014.6



●右側
福谷 克之
●左側
河内 泰三

IIS
TODAY

技術士という資格をご存知でしょうか。実は技術士は技術者にとって最も権威のある国家資格といわれており、非常に難しい試験に通る必要があります。その技術士試験にこの度合格された基礎系部門福谷研究室技術専門職員の河内さんと福谷先生に表紙にご登場いただきました。河内さんが手にされているのはもちろん技術士登録証です。福谷先生は固体表面・界面での物理を研究しており、そのために独自の真空装置を開発して実験を行う事も多いそうです。河内さんは、それら真空装置の設計、組み立て、立ち上げ、実験を支えています。そもそも技術士とは、技術士法によると「科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項について計画、研

究、設計、分析（中略）又はこれらに関する指導の業務を行う者」だそうです。21部門に分かれて科学技術に関するほぼ全ての分野を網羅しており、まさに生産技術研究所に必要な不可欠な資格と言えそうです。福谷先生によると研究室では論文などの研究成果だけでなく、それぞれの個人としての能力を伸ばすことを重視して運営をされているそうです。そのような研究室の雰囲気も技術士取得を後押ししたのではないのでしょうか。そして河内さんの次の目標はなんと国際エンジニア資格！上には上があるものです。

（守谷 頼）

沢田特任教授退職記念講演会

沢田治雄特任教授のご退任にあたり、2014年3月24日（月）に本所An棟2階コンベンションホールで「見えない光で地球を観る」と題した最終講義ならびに懇親会が開催されました。年度末のご多忙中のところ、150名もの方々にご臨席いただきました。沢田先生は、東京大学大学院農学研究科修士課程を修了の後およそ30年間、つくばの森林総合研究所に奉職され、平成20年より本所都市基盤安全工学国際研究センター(ICUS)で教授として、平成25年より特任教授として研究と教育に従事されました。応用リモートセンシングを旗印に、ブラジル、カンボジアにおける森林変動の定量評価を中心とした数々の国際共同プロジェクトの展開、成果の社会への普及など、社会基盤学におけ

る環境科学的な視点の導入に多大な貢献をなされました。渋谷で生まれ育った沢田先生の生い立ちから現在にいたるまでのお話は大変心温まるもので、参加者一同感動いたしました。懇親の場では、沢田先生より「旧知の方々が一堂に会し、本当に和やかな雰囲気嬉しく思いました」との声を頂戴しております。沢田先生は、4月から宇宙航空研究開発機構(JAXA)に異動され、タイ王国アジア工科大学院(AIT)地理空間情報研究センター(GIC)に勤務されております。先生には、心身のご健康にくれぐれも気をつけていただき、これからの益々のご活躍を願う次第です。

(人間・社会系部門 准教授 竹内 渉)



沢田特任教授退職記念講演会

エネルギー工学連携研究センター（CEE）ワークショップ 「再生可能エネルギー発電導入のための気象データ活用」

太陽光発電、風力発電は、気象現象によりその出力が不確定に変動し、電力システムの安定で経済的な運用を難しくする。発電出力の予測・把握技術は、これらの再生可能エネルギー発電の大量導入を実現するために必要となるさまざまな需給調整の技術を活用するための必須の技術として、日本を含め世界各国において研究・開発・利用が行われている。

このような状況の中、CEEは、3月25日（火）に本所 An 棟2階コンベンションホールにて、気象庁、気象研究所をはじめ、さまざまなステークホルダーの参加を得て、発電出力予測・把握技術の確立に向けたワークショップを開催した。ワークショップでは、気象データ活用の可能性、発電出力予測の必要性、動向

と今後の技術開発の方向性などの議論が行われた。気象庁に代表される国・社会のインフラとさまざまなデータの活用が重要であり、再生可能エネルギーに関連する工学と、自然科学である気象学の2分野を跨いだ産・学・官の今後の協力の可能性が確認された。

CEEでは、これまでの資源エネルギー庁、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のプロジェクトにおける太陽光発電予測技術開発に加え、新たな分野への取り組みを発展・継続し、再生可能エネルギー導入のための研究、技術開発、教育を展開する予定である。

（エネルギー工学連携研究センター 萩本 和彦）



◀気象庁 参事官 隈 健一氏



気象庁 数値予報モデル開発推進官 多田 秀夫氏▶



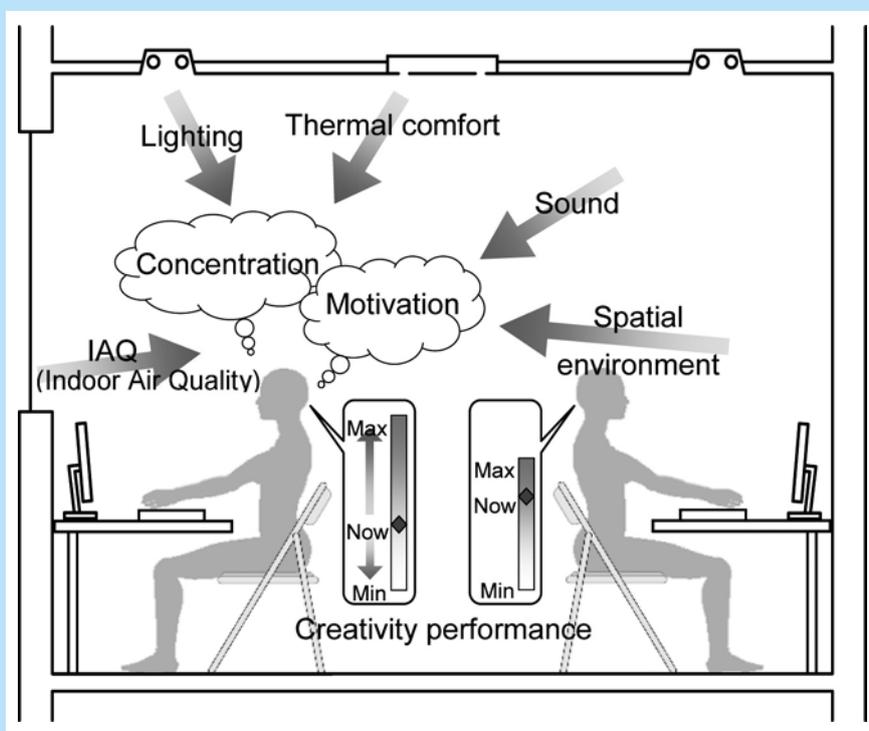
「人にやさしい空間」の研究報告会

足利工業大学睡眠科学センター、北陸学院大学、株式会社竹中工務店、東京大学生産技術研究所の4者は、2007年から2013年の間、「人に優しい空間」をテーマに産学連携の共同研究を続けてきました。その成果の発表の場として、2014年3月28日（金）、本学山上会館大会議室にて成果報告会を開催しました。

私たちは今、高度に集積・情報化された都市でストレスの高い生活を強いられ、働く人たちのこころの不調が社会問題になっています。建築空間は「生活の場」であり、公衆衛生の観点から安全かつ健康に保つ努力が不断に続けられていますが、まだまだ建築空間の改

善により、このような問題を緩和することが可能であると考えています。また、働く場・研究する場としての建築空間には、働く人の生産性や創造性の向上を図る余地があると考えています。「人にやさしい空間」研究プロジェクトは、建築空間が人々のより良い生活や活動を生理面・心理面などからサポートする機能を実現する条件とその効果を明らかにして、これを実証実験により確認するとともに、実際の建築空間に適用してきました。

（人間・社会系部門 教授 加藤 信介）



さまざまな室内環境要素が、人に与える影響を模式化したもの

NExT プログラム第三期生修了式が行われました

3月28日（金）に社会人新能力構築支援（NExT）プログラムの第三期生の修了式が開催されました。第三期は、海老原守さん（LIXIL）、斉藤俊幸さん（LIXIL）、中川和也さん（古野電気）、鈴木尚文さん（NEC）の4名の受講生をお迎えして、昨年4月にスタートしましたが、あっという間に1年が過ぎました。修了式は、受講生の方々のほか、中埜所長、受け入れ研究室の教員、NExTプログラム部会員、サポートの事務の方々などの参加を得て、修了証書の授与など、

和やかに進行しました。受講生の方々からNExTプログラムの感想や思い出を述べていただきましたが、4人とも大変ながらもとても充実した1年だったようです。今回、NExTプログラムを卒業されるわけですが、是非、OBとして今後もNExTプログラムの応援をよろしくお願い致します。

（社会人新能力構築支援プログラム部会
平川 一彦）



左から 鈴木 尚文氏、中川 和也氏、斉藤 俊幸氏、海老原 守氏

NExT プログラム第四期生入講式

4月4日（金）に社会人新能力構築支援（NExT）プログラムの第四期生の入講式が開催されました。NExT プログラムは、企業の中堅エンジニアや研究者の方々に、生研の3つの研究室を自由に選んで3～4ヶ月ずつ滞在する中で専門分野の幅を広げるとともに、新しい技術の芽を探索してもらい、次世代の技術イノベーションに繋がる橋渡しを行うという目的のものです。第四期を迎えた本年度は、宮川哲也さん（古野電気）1名と例年に比べて少数精鋭のスタートとな

りましたが、人数に負けない意欲あふれる受講生をお迎えすることができました。入講式は、受講生のほか、中塾所長、受け入れ研究室の教員、NExT プログラム部会員、サポートの事務の方々などの参加を得て、お互いのNExT プログラムに対する期待や思いを述べながら、和やかに進行しました。

（社会人新能力構築支援プログラム部会
平川 一彦）



「人と非構造材と室内空間に関する研究会」第3回シンポジウム「劇場・音楽ホールの人命安全と音響性能」開催

4月16日14:30~19:00に本所An棟2階コンベンションホールにて、「人と非構造材と室内空間に関する研究会」第3回シンポジウム「劇場・音楽ホールの人命安全と音響性能」が開催された。本研究会では、室内にいる「人」を中心に「非構造材」の落下事故防止・人命保護・耐震性能向上・機能維持等を行う方法について情報交換を行うため、数回のシンポジウムを企画している。3回目となる当シンポジウムの参加者は約170人であった。まず、本研究会の代表幹事である川口健一教授（人間・社会系部門）より趣旨説明があった後、2件の招待講演が行われた。1件目は本杉省三

教授（日本大学理工学部建築学科）より「東日本大震災における劇場・ホールの被害と客席天井改修」という題目でご講演いただき、数多くの調査事例に基づいたホール改修の問題点を指摘いただいた。2件目は福地智子氏（株式会社永田音響設計）より「ホールにおける内装仕上げと響きの関係」という題目でご講演いただき、ホールの多様な要求を満たす設計事例や苦労話を紹介された。当シンポジウムには関連企業のプレゼンテーションやブース形式の技術紹介があり、参加者は盛んに情報交換をされていた。

（人間・社会系部門 川口研究室 荻 芳郎）



開会挨拶を行う川口健一教授



招待講演を行う本杉省三教授



招待講演を行う福地智子氏



休憩時間中の技術交流風景

次世代モビリティ研究センター設立シンポジウム開催

4月21日（月）、本所An棟コンベンションホールにおいて次世代モビリティ研究センター（通称：ITSセンター）の設立記念シンポジウムが開催された。前身である先進モビリティ研究センターの活動を引き継いで、新センターが2014年4月に新たに設立されたことを記念したものである。基調講演では藤本隆宏教授（本学経済学部）から自動車産業界の動向と近未来展望に関してご講演いただいた。その後、センター長である須田義大教授をはじめ新センターメンバーから自動運転を中心とした技術、政策面でのITSの現状と今後の取り組みについて紹介された。「ITSセンター活動成果の社会実装に向けて」と題したパネルディスカッ

ションでは、天野肇氏（ITSセンター客員教授、ITS Japan 専務理事）、石黒博氏（柏市副市長）、石塚哲夫氏（JR 東日本研究開発センターフロンティアサービス研究所長）、中山幸二氏（明治大学法科大学院教授）、池内克史氏（ITSセンター教授）が登壇し、これまでのITSに関する取り組みと、新センターとの連携の重要性や今後の展望について議論がなされた。所外からの参加者数は100名を超え、シンポジウム終了後には参加者との懇親会が盛況に開催されるなど、新センターとして順調なスタートとなった。

（次世代モビリティ研究センター
大石 岳史）



VISITS

外国人客員研究員

氏名	国籍・所属	研究期間	受入研究室
SONG, Sang-Hun	大韓民国	2014. 9. 1 ~ 2014.11.30	情報・エレクトロニクス系部門 平川研究室
XUE, Ye	中華人民共和国	2014. 7.15 ~ 2015. 1.14	人間・社会系部門 加藤(孝)研究室

外国人協力研究員

氏名	国籍・所属	研究期間	受入研究室
TARHAN, Mehmet Cagatay	トルコ共和国	2014. 5. 1 ~ 2015. 4.30	情報・エレクトロニクス系部門 藤田研究室

博士研究員

氏名	国籍・所属	研究期間	受入研究室
武居 淳	日本	2014. 4. 1 ~ 2015. 3.31	情報・エレクトロニクス系部門 藤田研究室
LIU Bo	中華人民共和国	2014. 4. 1 ~ 2014. 5.31	情報・エレクトロニクス系部門 合原研究室
西川 功	日本	2014. 4. 1 ~ 2015. 3.31	情報・エレクトロニクス系部門 合原研究室
櫻井 雄大	日本	2014. 4.10 ~ 2015. 3.31	人間・社会系部門 今井研究室
佐藤 真理	日本	2014. 4.10 ~ 2015. 3.31	人間・社会系部門 桑野研究室
斎藤 陽平	日本	2014. 4. 9 ~ 2015. 3.31	情報・エレクトロニクス系部門 小林研究室

準博士研究員

氏名	国籍・所属	研究期間	受入研究室
坂本 正哉	日本	2014. 4. 1 ~ 2014. 4.15	機械・生体系部門 須田研究室

東京大学特別研究員

氏名	国籍・所属	研究期間	受入研究室
CHIARO Gabrielle	イタリア	2014. 4. 1 ~ 2016. 3.31	基礎系部門 清田研究室
下河 有司	日本	2014. 4. 1 ~ 2015. 3.31	基礎系部門 酒井(啓)研究室
GINES Guillaume	フランス	2014. 4. 8 ~ 2016. 4. 7	機械・生体系部門 藤井(輝)研究室
TAN Angel	マレーシア	2014. 5.18 ~ 2016. 5.17	機械・生体系部門 松永研究室
DINO Klotz	ドイツ	2014. 5.19 ~ 2015. 5.18	機械・生体系部門 鹿園研究室

PERSONNEL

人事異動

生産技術研究所 教員等

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	鈴木 高宏	辞職	東北大学未来科学技術共同研究センター副センター長/教授	准教授 機械・生体系部門
H26. 3.31	大原 美保	辞職	独立行政法人土木研究所	准教授 人間・社会系部門
H26. 3.31	佐藤 琢哉	辞職	准教授 九州大学理学部物理学科	助教 基礎系部門
H26. 3.31	荒畑恵美子	辞職	准教授 首都大学東京	助教 基礎系部門
H26. 3.31	望月 将志	辞職	研究員 独立行政法人防災科学技術研究所	助教 附属海中工学国際研究センター
H26. 3.31	尾上 弘晃	辞職	専任講師 慶応義塾大学	助教 附属マイクロナノメカトロニクス国際研究センター

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	伊藤 正彦	辞職	有期雇用研究員 独立行政法人情報通信研究機構 特任准教授(特定短時間) 生産技術研究所	助教 情報・エレクトロニクス系部門
H26. 3.31	齋藤 幹久	辞職	主任研究員 一般財団法人電力中央研究所	助教 情報・エレクトロニクス系部門
H26. 3.31	野瀬 健二	辞職	株式会社UACJ	助教 物質・環境系部門
H26. 3.31	洪 性俊	辞職	一般職員 パシフィックコンサルタンツ株式会社	助教 人間・社会系部門
H26. 3.31	横山 栄	辞職	研究員 一般財団法人小林理学研究所	助教 人間・社会系部門
H26. 3.31	熊谷 潤	辞職	リベラ株式会社	助教 人間・社会系部門

PERSONNEL

(学内異動 (入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	大原 美保	配置換	准教授 人間・社会系部門	准教授 大学院情報学環

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	須田 義大	配置換	教授 附属次世代モビリティ 研究センター	教授 附属先進モビリティ 研究センター
H26. 4. 1	林 昌奎	配置換	教授 機械・生体系部門	教授 附属海中工学国際 研究センター
H26. 4. 1	藤井 輝夫	配置換	教授 附属統合バイオメディカル システム国際研究センター	教授 附属マイクロナノメカ トロニクス国際研究セ ンター
H26. 4. 1	光田 好孝	配置換	教授 附属サステナブル材料 国際研究センター	教授 物質・環境系部門
H26. 4. 1	酒井 康行	配置換	教授 附属統合バイオメディカル システム国際研究センター	教授 物質・環境系部門
H26. 4. 1	大口 敬	配置換	教授 附属次世代モビリティ 研究センター	教授 附属先進モビリティ 研究センター
H26. 4. 1	竹内 昌治	昇任	教授 機械・生体系部門	准教授 附属マイクロナノメカ トロニクス国際研究セ ンター
H26. 4. 1	北澤 大輔	配置換	准教授 機械・生体系部門	准教授 附属海中工学国際 研究センター
H26. 4. 1	巻 俊宏	配置換	准教授 機械・生体系部門	准教授 附属海中工学国際 研究センター
H26. 4. 1	河野 崇	配置換	准教授 情報・エレクトロニクス 系部門	准教授 附属マイクロナノメカ トロニクス国際研究セ ンター
H26. 4. 1	大石 岳史	配置換	准教授 附属次世代モビリティ 研究センター	准教授 附属先進モビリティ 研究センター
H26. 4. 1	小林 徹也	配置換	准教授 附属統合バイオメディ カルシステム国際研究 センター	准教授 情報・エレクトロニク ス系部門
H26. 4. 1	坂本 慎一	配置換	准教授 附属次世代モビリティ 研究センター	准教授 附属先進モビリティ 研究センター
H26. 4. 1	吉田 秀範	配置換	准教授 附属次世代モビリティ 研究センター	准教授 附属先進モビリティ 研究センター
H26. 4. 1	川添 善行	昇任	准教授 人間・社会系部門	講師 人間・社会系部門
H26. 4. 1	影沢 政隆	配置換	助教 情報・エレクトロニク ス系部門	助教 附属先進モビリティ 研究センター
H26. 4. 1	藤野 正俊	配置換	助手 機械・生体系部門	助手 附属海中工学国際 研究センター
H26. 4.16	金 範峻	昇任	教授 附属マイクロナノメカ トロニクス国際研究セ ンター	准教授 附属マイクロナノメカ トロニクス国際研究セ ンター

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	蘆原 聡	採用	准教授 基礎系部門	准教授 東京農工大学大学院工 学研究院
H26. 4. 1	川越 至桜	採用	講師 ONG担当(機械・生 体系部門)	特任助教 次世代育成オフィス
H26. 4. 1	木村 文信	採用	助教 機械・生体系部門	東京大学大学院工学系 研究科精密工学専攻博 士後期課程
H26. 4. 1	本間 裕大	採用	講師 附属都市基盤安全工学 国際研究センター	助教(テニユア・トラッ ク研究員) 早稲田大学高等研究所
H26. 4. 1	森本 雄矢	採用	助教 機械・生体系部門	東京大学大学院情報理 工学系研究科知能機械情 報学専攻博士後期課程

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	岡村 健太郎	採用	助教 人間・社会系部門	東京大学大学院工学系 研究科建築学専攻博士 後期課程
H26. 4. 1	和田 健太郎	採用	助教 人間・社会系部門	特任助教 東北大学大学院情報科 学研究科
H26. 4. 1	吉田 健治	採用	助教 情報・エレクトロニク ス系部門	特任研究員 情報・エレクトロニク ス系部門
H26. 4. 1	米谷 竜	採用	助教 情報・エレクトロニク ス系部門	特別研究員 日本学術振興会
H26. 5. 1	小林 正治	採用	准教授 情報・エレクトロニク ス系部門	Research Staff Member IBM (米国)
H26. 5. 1	池内与志穂	採用	講師 物質・環境系部門	スタッフサイエンティ スト ワシントン大学 (米国)

(任期付教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	浅田 昭	配置換	教授 機械・生体系部門	-
H26. 4. 1	横井 秀俊	任期更新	教授 機械・生体系部門	-
H26. 4. 1	加藤 千幸	配置換	教授 附属革新的シミュレ ーション研究センター	-
H26. 4. 1	櫻井 貴康	任期更新	教授 情報・エレクトロニク ス系部門	-
H26. 4. 1	松永 行子	採用	講師 附属統合バイオメディ カルシステム国際研究 センター	特任講師

(所長・附属研究施設長)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	加藤 信介	兼務	副所長	-
H26. 4. 1	藤井 輝夫	兼務	副所長	-
H26. 4. 1	佐藤 洋一	兼務	副所長	-
H26. 4. 1	須田 義大	兼務	附属千葉実験所所長	-
H26. 4. 1	須田 義大	兼務	附属次世代モビリティ 研究センター長	-
H26. 4. 1	酒井 康行	兼務	附属統合バイオメディ カルシステム国際研究 センター長	-

(兼任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	小長井一男	兼任	教授 基礎系部門	教授 横浜国立大学大学院都市 イノベーション研究院
H26. 4. 1	村松 伸	兼任	教授 人間・社会系部門	教授 人間文化研究機構総合地 球環境学研究所研究部

(兼務教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	大島 まり	兼務	教授 機械・生体系部門	教授 大学院情報学環
H26. 4. 1	池内 克史	兼務	教授 附属次世代モビリティ 研究センター	教授 大学院情報学環
H26. 4. 1	瀬崎 薫	兼務	教授 情報・エレクトロニク ス系部門	教授 空間情報科学研究セン ター
H26. 4. 1	年吉 洋	兼務	教授 附属マイクロナノメカ トロニクス国際研究セ ンター	教授 先端科学技術研究セン ター
H26. 4. 1	前田 正史	兼務	教授 附属サステナブル材 料国際研究センター	理事・副学長
H26. 4. 1	尾張 真則	兼務	教授 物質・環境系部門	教授 環境安全研究センター
H26. 4. 1	森田 一樹	兼務	教授 附属サステナブル材 料国際研究センター	教授 大学院工学系研究科

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	柴崎 亮介	兼 務	教授 人間・社会系部門	教授 空間情報科学研究センター
H26. 4. 1	目黒 公郎	兼 務	教授 附属都市基盤安全工学 国際研究センター	教授 大学院情報学環
H26. 4. 1	中野 公彦	兼 務	准教授 附属次世代モビリティ 研究センター	准教授 大学院情報学環
H26. 4. 1	高宮 真	兼 務	准教授 情報・エレクトロニクス 系部門	准教授 大規模集積システム設 計教育研究センター
H26. 4. 1	根本 利弘	兼 務	准教授 情報・エレクトロニクス 系部門	准教授 地球観測データ統合 連携研究機構
H26. 4. 1	上條 俊介	兼 務	准教授 附属ソシオグローバル 情報工学研究センター	准教授 大学院情報学環
H26. 4. 11	TIXIER EPOUSE MITA AGNES LAURE MARIE BEATRICE	兼 務	准教授 附属マイクロナノメカ トロニクス国際研究セ ンター	准教授 先端科学技術研究セ ンター
H26. 4. 1	鈴木 秀幸	兼 務	准教授 情報・エレクトロニクス 系部門	准教授 大学院情報理工学系研 究科
H26. 4. 1	芳村 圭	兼 務	准教授 人間・社会系部門	准教授 大気海洋研究所
H26. 4. 1	佐藤 光三	兼 務	教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	教授 大学院工学系研究科
H26. 4. 1	堂免 一成	兼 務	教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	教授 大学院工学系研究科
H26. 4. 1	田中 知	兼 務	教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	教授 大学院工学系研究科
H26. 4. 1	藤井 康正	兼 務	教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	教授 大学院工学系研究科
H26. 4. 1	菊地 隆司	兼 務	准教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	准教授 大学院工学系研究科
H26. 4. 1	日高 邦彦	兼 務	教授 附属エネルギー工学連 携研究センター	教授 大学院工学系研究科
H26. 4. 1	津本 浩平	兼 務	教授 物質・環境系部門	教授 大学院工学系研究科

(客員部門)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	大野 隆央	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 高次協調モデリング部門	-
H26. 4. 1	呉 光強	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 機械・生体系部門	-
H26. 4. 1	小高 俊彦	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 附属ソシオグローバル 情報工学研究センター	-
H26. 4. 1	澤田 賢治	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 附属サステイナブル材 料国際研究センター	-
H26. 4. 1	富山 哲男	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 人間・社会系部門	-
H26. 4. 1	中村 崇	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 附属サステイナブル材 料国際研究センター/ 非鉄金属資源循環工学 寄付研究部門	-
H26. 4. 1	大和田秀二	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 附属サステイナブル材 料国際研究センター	-
H26. 4. 1	山口 勉功	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 附属サステイナブル材 料国際研究センター	-
H26. 4. 1	柴山 敦	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 附属サステイナブル材 料国際研究センター	-
H26. 4. 1	宿谷 昌則	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 人間・社会系部門	-
H26. 4. 1	堀田 正生	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 情報・エレクトロニクス 系部門	-
H26. 4. 1	岩田 悟志	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 附属次世代モビリティ 研究センター	-

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	川口 勝義	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 機械・生体系部門	-
H26. 4. 1	小野 謙二	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 革新的シミュレーショ ン研究センター	-
H26. 4. 1	陳 洛南	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 情報・エレクトロニク ス系部門	-
H26. 4. 1	寒川 哲臣	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 光電子融合研究セ ンター	-
H26. 4. 1	天野 肇	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 附属次世代モビリティ 研究センター	-
H26. 4. 1	CHUNG, Edward	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 附属次世代モビリティ 研究センター	-
H26. 4. 1	土橋 浩	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 附属都市基盤安全工学 国際研究センター	-
H26. 4. 1	伊藤 哲朗	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授) 附属都市基盤安全工学 国際研究センター	-

(寄付研究部門等)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	志村 努	兼 務	特任教授 ニコイメージングサ イエンス寄付研究部門	教授 附属光電子融合研究セ ンター
H26. 4. 1	須田 義大	兼 務	特任教授 モビリティ・フィール ドサイエンス社会連携 研究部門	教授 附属先進モビリティ研 究センター
H26. 4. 1	前田 正史	兼 務	特任教授 非鉄金属資源循環工学 寄付研究部門	理事・副学長
H26. 4. 1	岡部 徹	兼 務	特任教授 非鉄金属資源循環工学 寄付研究部門	教授 附属サステイナブル材 料国際研究センター
H26. 4. 1	酒井 康行	兼 務	特任教授 炎症・免疫制御学社会 連携研究部門	教授 物質・環境系部門
H26. 4. 1	野城 智也	兼 務	特任教授 建物におけるエネル ギー・デマンドの能動・ 包括制御技術社会連携 研究部門	教授 人間・社会系部門
H26. 4. 1	大岡 龍三	兼 務	特任教授 建物におけるエネル ギー・デマンドの能動・ 包括制御技術社会連携 研究部門	教授 人間・社会系部門

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3. 31	金子 祥三	任期満了	特任教授 (特定短時間)	特任教授
H26. 3. 31	高川 真一	任期満了	-	特任教授
H26. 3. 31	BASTARD, Gérald A n d r è Mauri	任期満了	主席研究員 C N R S	特任教授
H26. 3. 31	沢田 治雄	任期満了	研究員 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	特任教授
H26. 3. 31	牧野 貴樹	任期満了	システム・エンジニア グループ株式会社	特任准教授
H26. 3. 31	平田 祥人	任期満了 (プロジェクト変更)	特任准教授	特任准教授
H26. 3. 31	楊 征路	任期満了	正規職員 南開大学 (中国)	特任准教授
H26. 3. 31	合田 和生	任期満了 (プロジェクト変更)	特任准教授	特任准教授
H26. 3. 31	吉永 直樹	任期満了	有期雇用研究員 独立行政法人情報通信 研究機構 特任准教授 (特定短時間) 生産技術研究所	特任准教授
H26. 3. 31	鍛冶 伸裕	任期満了	有期雇用研究員 独立行政法人情報通信 研究機構 特任准教授 (特定短時間) 生産技術研究所	特任准教授

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	西田 周平	任期満了 (プロジェクト変更)	特任講師	特任講師
H26. 3.31	村田憲一郎	任期満了	助教 北海道大学低温科学研究所	特任助教
H26. 3.31	金 岡秀	任期満了	招聘研究員 独立行政法人 海上技術安全研究所	特任助教
H26. 3.31	川越 至桜	任期満了	講師	特任助教
H26. 3.31	藤原 研人	任期満了	—	特任助教
H26. 3.31	呂 敏	任期満了	特任助教 (特定短時間)	特任助教
H26. 3.31	占部 千由	任期満了	特任助教	特任助教
H26. 3.31	西川 功	任期満了	—	特任助教
H26. 3.31	商 海川	任期満了	有期雇用研究員 独立行政法人情報通信 研究機構 特任助教 (特定短時間) 生産技術研究所	特任助教
H26. 3.31	BASHAR MD. KHAYRU	任期満了	特任准教授 お茶の水女子大学リー ディング大学院推進セン ター	特任助教
H26. 3.31	野瀬 勝弘	任期満了 (プロジェクト変更)	特任助教	特任助教
H26. 3.31	神藤 忠史	任期満了	—	特任助教
H26. 3.31	関山 絢子	任期満了	助教 東京農業大学	特任助教
H26. 4. 1	西田 周平	採用 (プロジェクト変更)	特任講師	特任講師
H26. 4. 1	田山 純平	採用	特任助教	特任助教 東京農工大学光ナノ科学 融合研究リング
H26. 4. 1	JEFFREY TAN TOO CHUAN	任 命	特任助教	特任研究員
H26. 4. 1	杉町 敏之	任 命	特任助教	特任研究員
H26. 4. 1	孟 毅	採用	特任助教	特任研究員
H26. 4. 1	岩永進太郎	任 命	特任助教	特任研究員
H26. 4. 1	平田 祥人	採用 (プロジェクト変更)	特任准教授	特任准教授
H26. 4. 1	合田 和生	採用 (プロジェクト変更)	特任准教授	特任准教授
H26. 4. 1	吉永 直樹	採用	特任准教授 (特定短時間)	特任准教授
H26. 4. 1	鍛冶 伸裕	採用	特任准教授 (特定短時間)	特任准教授
H26. 4. 1	商 海川	採用	特任助教 (特定短時間)	特任助教
H26. 4. 1	伊藤 正彦	採用	特任准教授 (特定短時間)	助教
H26. 4. 1	上野 耕平	採用	特任助教	特別研究員 日本学術振興会
H26. 4. 1	野瀬 勝弘	採用 (プロジェクト変更)	特任助教	特任助教
H26. 4. 1	占部 千由	採用 (プロジェクト変更)	特任助教	特任助教
H26. 4. 1	安立美奈子	採用	特任助教	特別研究員 (独)国立環境研究所
H26. 5. 1	生島 弘彬	採用	特任助教	特任研究員

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	沖山 佳生	任期満了	研究員 独立行政法人理化学研 究所	特任研究員
H26. 3.31	渡邊 千鶴	任期満了	研究員 独立行政法人理化学研 究所	特任研究員
H26. 3.31	TIRTOM ISMAIL	任期満了	—	特任研究員
H26. 3.31	孟 毅	任期満了	特任助教	特任研究員
H26. 3.31	中村 寛子	任期満了	特定研究員 東海大学	特任研究員
H26. 3.31	三浦 重徳	任期満了	助教 京都大学再生医科学研究 所	特任研究員
H26. 3.31	佐藤 隆昭	任期満了 (プロジェクト変更)	特任研究員	特任研究員

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	TARHAN MEHMET CAGATAY	任期満了 (プロジェクト変更)	特任研究員	特任研究員
H26. 3.31	澤井 賢一	任期満了	研究員 九州大学	特任研究員
H26. 3.31	RAGE UDAY KIRAN	任期満了	有期雇用研究員 独立行政法人情報通信 研究機構 特任研究員 (特定短時間) 生産技術研究所	特任研究員
H26. 3.31	李 善	任期満了	—	特任研究員
H26. 3.31	高橋 勇介	任期満了	技術補佐員	特任研究員
H26. 3.31	CHOWDHURY MOHAMMAD MAHFUZ	任期満了	—	特任研究員
H26. 3.31	光安 皓	任期満了	パシフィックコンサル タンツ株式会社	特任研究員
H26. 3.31	澤田 義人	任期満了	—	特任研究員
H26. 3.31	石川 典貴	任期満了	—	特任研究員
H26. 4. 1	荒井 美穂	採用	特任研究員	東京大学大学院工学系 研究科物理学専攻博 士課程
H26. 4. 1	高江 恭平	採用	特任研究員	特別研究員 日本学術振興会
H26. 4. 1	清水涼太郎	採用	特任研究員	東京大学大学院工学系 研究科物理学専攻博 士課程
H26. 4. 1	金 相沅	採用	特任研究員	特任研究員 (短時間)
H26. 4. 1	武安光太郎	採用	特任研究員	東京大学大学院工学系 研究科物理学専攻博 士課程
H26. 4. 1	片瀬 冬樹	任 命	特任研究員	技師 国際航業 (株) 東日本事 業部第五技術部海洋エ ンジニアグループ
H26. 4. 1	小島 光博	任 命	特任研究員	(株) エヌ・ティ・ティ データ C C S
H26. 4. 1	関戸 健治	採用	特任研究員	首都大学東京大学院博 士後期課程システムデ ザイン研究科システム デザイン専攻
H26. 4. 1	川田 治良	採用	特任研究員	東京大学大学院工学系 研究科バイオエンジニ アリング専攻博士課程
H26. 4. 1	崔 復圭	採用	特任研究員	課長 L G 化学技術研究所
H26. 4. 1	小沢 文智	採用	特任研究員	東北大学大学院環境科 学研究科環境科学専 攻後期博士課程
H26. 4. 1	霜野 慧亮	採用	特任研究員	東京農工大学大学院工 学府機械システム工学 専攻博士後期課程
H26. 4. 1	須賀比奈子	採用	特任研究員	研究員 筑波大学分子行動科学 研究コア
H26. 4. 1	堤 さちね	採用	特任研究員	研究員 筑波大学医学医療系神 経内分泌学研究室
H26. 4. 1	外岡 大志	採用	特任研究員	東京大学大学院情報理 工学系研究科知能機械情 報学専攻博士後期課程
H26. 4. 1	南 垠列	採用	特任研究員	東京大学大学院農学生 命科学研究科獣医学専 攻獣医学博士課程
H26. 4. 1	幅崎 昌平	採用	特任研究員	東京大学大学院情報理 工学系研究科知能機械 情報学専攻修士課程
H26. 4. 1	NEETTIYATH UMESH	採用	特任研究員	Research Student, Department of Engineering Design, Indian Institute of Technology Madras
H26. 4. 1	SANGEKAR MEHUL NARESH	採用	特任研究員	東京大学大学院新領域創 成科学研究科海洋技術環 境学専攻博士後期課程
H26. 4. 1	佐藤 隆昭	採用 (プロジェクト変更)	特任研究員	特任研究員
H26. 4. 1	高山 由貴	採用	特任研究員	学術支援専門職員
H26. 4. 1	TARHAN MEHMET CAGATAY	採用 (プロジェクト変更)	特任研究員	特任研究員
H26. 4. 1	早水 悠登	採用	特任研究員	—
H26. 4. 1	山田 浩之	採用	特任研究員	東京大学大学院情報理 工学系研究科電子情報 学専攻博士後期課程

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	水谷 朋子	採用	特任研究員	学術支援専門職員（短時間）
H26. 4. 1	島野美保子	採用	特任研究員	JST さきがけ研究員（独）科学技術振興機構
H26. 4. 1	LAFITTE NICOLAS ALEX-ANDRE MARTIN	採用	特任研究員	特任研究員 先端科学技術研究センター
H26. 4. 1	許 立達	採用	特任研究員	-
H26. 4. 1	王 冰	採用	特任研究員	研究員（独）科学技術振興機構 FIRST 合原最先端数理モデルプロジェクト
H26. 4. 1	横田 亮	採用	特任研究員	研究員（独）科学技術振興機構 FIRST 合原最先端数理モデルプロジェクト
H26. 4. 1	大川 周平	任命	特任研究員	学術支援職員
H26. 4.30	RAGE UDEY KIRAN	退職	有期研究員（独）情報通信研究機構／特任助教（特定短時間）	特任研究員
H26. 4.30	商 海川	退職	有期研究員（独）情報通信研究機構／特任助教（特定短時間）	特任助教
H26. 4.30	TARHAN MEHMET CAGATAY	退職	博士研究員	特任研究員
H26. 4.30	生島 弘彬	退職	特任助教	特任研究員
H26. 5. 1	中村 正明	採用	特任研究員	研究員 マックス・プランク研究所／特任研究員（特定短時間）
H26. 5. 1	PACOT OLIVIER	採用	特任研究員	博士課程 スイス連邦工科大ローザンヌ校

(特任専門員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	西村 薫	退職	特任専門員 リサーチ・マネジメント・オフィス	特任専門員 リサーチ・マネジメント・オフィス
H26. 4. 1	西村 薫	採用	特任専門員 リサーチ・マネジメント・オフィス	特任専門員 リサーチ・マネジメント・オフィス

(学術支援専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	皆川 廣司	任期満了	学術支援専門職員（特定短時間）	学術支援専門職員
H26. 3.31	小貫真委子	任期満了（プロジェクト変更）	学術支援専門職員	学術支援専門職員
H26. 3.31	高山 由貴	任期満了	特任研究員	学術支援専門職員
H26. 3.31	山岸 正	任期満了	主管技師（株）日立製作所	学術支援専門職員
H26. 3.31	宮崎 智子	任期満了（プロジェクト変更）	学術支援専門職員	学術支援専門職員
H26. 4. 1	小貫真委子	採用（プロジェクト変更）	学術支援専門職員	学術支援専門職員
H26. 4. 1	小笠原早苗	採用	学術支援専門職員	技術員（独）科学技術振興機構 FIRST 合原最先端数理モデルプロジェクト
H26. 4. 1	寶来 俊介	採用	学術支援専門職員	技術参事（独）科学技術振興機構 FIRST 合原最先端数理モデルプロジェクト
H26. 4. 1	宮崎 智子	採用（プロジェクト変更）	学術支援専門職員	学術支援専門職員

(学術支援職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	長野美登里	任期満了	学術支援職員（特定短時間）	学術支援職員
H26. 3.31	塚本 淑子	任期満了（プロジェクト変更）	学術支援職員	学術支援職員
H26. 3.31	昼間絵里香	任期満了	学術支援職員 大学院情報理工学系研究科	学術支援職員
H26. 4. 1	大泉 智子	採用	学術支援職員	学術支援職員（特定短時間）

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	塚本 淑子	採用（プロジェクト変更）	学術支援職員	学術支援職員
H26. 4. 1	池田 鈴子	採用	学術支援職員	-
H26. 4. 1	高田 真美	採用	学術支援職員	学術支援職員（特定短時間）
H26. 4. 1	榎本 恭子	採用	学術支援職員	-

生産技術研究所 技術系等

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	藤井 隆夫	定年退職	-	技術専門員 物質・環境系部門

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	奥山 光作	昇任	技術専門員 物質・環境系部門	技術専門職員 物質・環境系部門
H26. 4. 1	大矢 俊治	昇任	技術専門員 人間・社会系部門	技術専門職員 人間・社会系部門
H26. 4. 1	三澤 徹	昇任	技術専門職員 試作工場	技術職員 試作工場
H26. 4. 1	平野 太一	昇任	技術専門職員 基礎系部門	技術職員 基礎系部門

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	千原 正男	再雇用 任期更新	再雇用教職員 基礎系部門	-
H26. 4. 1	瀬川 茂樹	再雇用 任期更新	再雇用教職員 機械・生体系部門	-
H26. 4. 1	小駒 幸江	再雇用 任期更新	再雇用教職員 人間・社会系部門	-
H26. 4. 1	小野寺 章	再雇用 任期更新	再雇用教職員 試作工場	-
H26. 4. 1	滑川 敏夫	再雇用 任期更新	再雇用教職員 試作工場	-
H26. 4. 1	平原 清光	再雇用 任期更新	再雇用教職員 電子計算機室	-
H26. 4. 1	板倉 博	再雇用 任期更新	再雇用教職員 機械・生体系部門	-
H26. 4. 1	高橋 岳生	再雇用 任期更新	再雇用教職員 人間・社会系部門	-

生産技術研究所 事務系等

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	我妻 優美	退職	-	総務課一般職員（総務・広報チーム）

(学内異動（出）)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	鈴木 敏人	配置換	柏地区事務機構長	事務部長
H26. 4. 1	見供 隆	配置換	契約課長 財務部契約課	経理課長／総務課研究環境調整室副室長
H26. 4. 1	高島 章寿	配置換	副課長 財務部契約課	経理課副課長／連携研究支援室長
H26. 4. 1	加藤 千鶴	昇任	主査 新領域創成科学研究科（兼務）研究交流係長	経理課係長（連携研究支援室企画チーム）企画チームリーダー
H26. 4. 1	近 泰子	昇任	専門職員 本部総務課秘書チーム	総務課係長（国際交流チーム）／国際交流チームリーダー
H26. 4. 1	河村 扶美	配置換	係長 医学部・医学系研究科 図書受入係	総務課係長（図書チーム）／図書チームリーダー
H26. 4. 1	市村 和巳	配置換	係長 工学系・情報理工学系等 総務課人事・給与チーム	総務課係長（人事・厚生チーム）／人事・厚生チームサブリーダー
H26. 4. 1	藤原 明子	配置換	主任 農学系教務課 専攻支援チーム	総務課主任（国際交流チーム）

(出向)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	大平 智子	在籍出向	掛長 名古屋大学工学部・工学系研究科総務課研究推進掛	経理課係長（連携研究支援室執行チーム）／執行チームリーダー
H26. 4. 1	西野 敏成	在籍出向	係長 筑波大学東京キャンパス事務部会計課	経理課主任（財務・監査チーム）

(学内異動(入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	根岸 正己	配置換	事務部長	社会連携部長
H26. 4. 1	渡邊 仁之	昇任	経理課長	副課長 財務部契約課
H26. 4. 1	須藤桂太郎	昇任	経理課専門職員	係長 財務部財務課財務統括 チーム
H26. 4. 1	村松 敏哉	配置換	総務課係長(図書チ ーム) / 図書チームリ ーダー	係長 理学系研究科等総務課 図書チーム
H26. 4. 1	野口 知行	配置換	総務課係長(人事・厚 生チーム) / 人事・厚生 チームサブリーダー	係長 医学部附属病院総務課 人事労務チーム
H26. 4. 1	渡邊 恵理	昇任	総務課係長(国際交流 チーム) / 国際交流チ ームリーダー	主任 農学系教務課専攻支援 チーム
H26. 4. 1	風早 留美	配置換	総務課一般職員(連携 研究支援室執行チーム)	一般職員 医学部附属病院管理課 経理チーム
H26. 4. 1	柴崎 亜弥	配置換	総務課一般職員 (国際交流チーム)	一般職員 国際部国際企画課(在米)

(復帰)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	寺岡 仁	復帰	総務課係長(研究総務 チーム)	係長 国立科学博物館経営管 理部経営管理課
H26. 4. 1	松峯 正典	昇任	経理課主任(財務・監 査チーム)	一般職員 文部科学省大臣官房会 計課第一予算班第二係

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	成田 綾子	在籍出向	経理課主任(連携研究 支援企画チーム)	主任 情報・システム研究機 構極地研・統数研統合 事務部企画グループ
H26. 4. 1	高野 朱香	採用	総務課一般職員(総務・ 広報チーム)	-

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	石塚 泰史	昇任	経理課副課長 連携研究支援室長	経理課専門職員(予算執 行チーム) 予算執行チームリ ーダー
H26. 4. 1	安部 秀明	任命	経理課係長(連携研 究支援室企画チーム) 企画チームリーダー	経理課係長(連携研究 支援室企画チーム)
H26. 4. 1	南 雅治	任命	経理課係長(連携研 究支援室執行チーム) 執行チームリーダー	経理課係長(連携研究 支援室執行チーム)

(休職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3. 18	野口 達也	休職更新	係長 総務課施設チーム	-

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3. 31	尾迫 雅英	再雇用 任期満了	特任専門職員 千葉実験所整備準備室	再雇用教職員 総務課研究総務チーム
H26. 4. 1	林 美郷	再雇用 任期更新	再雇用教職員 千葉実験所事務室	-
H26. 4. 1	金丸 敏真	再雇用 任期更新	再雇用教職員 経理課予算執行チーム	-
H26. 3. 31	片桐 和子	任期満了	特任専門員 経理課	特任専門員 経理課最先端研究開発 支援室
H26. 4. 1	片桐 和子	採用	特任専門員 経理課	特任専門員 経理課最先端研究開発 支援室

(特任専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	尾迫 雅英	採用	特任専門職員 千葉実験所整備準備室	再雇用教職員 総務課研究総務チーム

(学術支援職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3. 31	大内 啓彰	任期満了	事務補佐員 経理課	学術支援職員 経理課最先端研究開発 支援室

地球観測データ統融合連携研究機構

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3. 31	吉岡 明良	任期満了	研究テーマ型任期付研 究員 独立行政法人国立環境 研究所	特任助教
H26. 4. 1	山本 昭夫	採用	特任助教	特任助教(特定短時間)

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H25. 3. 31	藤井 秀幸	任期満了	一般財団法人リモート・ センシング技術セン ター	特任研究員
H25. 3. 31	寺口 敏夫	任期満了	-	特任研究員
H25. 3. 31	殺 玉林	任期満了	正規職員 日立オートモティブシ ステムズ	特任研究員

(学術支援専門員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H25. 3. 31	藤田 智子	任期満了	学術支援専門職員 大学院工学系研究科	学術支援専門職員

ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 職員等

(兼務教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	荒川 泰彦	兼 務	教授	教授 生産技術研究所
H26. 4. 1	今井 浩	兼 務	教授	教授 大学院情報理工学系研究科
H26. 4. 1	大津 元一	兼 務	教授	教授 大学院工学系研究科
H26. 4. 1	勝本 信吾	兼 務	教授	教授 物性研究所
H26. 4. 1	五神 真	兼 務	教授	教授 大学院理学系研究科
H26. 4. 1	田中 雅明	兼 務	教授	教授 大学院工学系研究科
H26. 4. 1	樽茶 清悟	兼 務	教授	教授 大学院工学系研究科
H26. 4. 1	平川 一彦	兼 務	教授	教授 生産技術研究所
H26. 4. 1	平本 俊郎	兼 務	教授	教授 生産技術研究所
H26. 4. 1	古澤 明	兼 務	教授	教授 大学院工学系研究科
H26. 4. 1	山内 薫	兼 務	教授	教授 大学院理学系研究科
H26. 4. 1	染谷 隆夫	兼 務	教授	教授 大学院工学系研究科
H26. 4. 1	中村 泰信	兼 務	教授	教授 先端科学技術研究センター
H26. 4. 1	高橋 琢二	兼 務	教授	教授 生産技術研究所
H26. 4. 1	町田 友樹	兼 務	准教授	准教授 生産技術研究所
H26. 4. 1	村尾 美緒	兼 務	准教授	准教授 大学院理学系研究科
H26. 4. 1	岩本 敏	兼 務	准教授	准教授 生産技術研究所
H26. 4. 1	野村 政宏	兼 務	准教授	准教授 生産技術研究所

(客員部門)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 4. 1	野田 進	委 嘱	教授	教授 京都大学工学研究科
H26. 4. 1	田原 修一	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授)	-
H26. 4. 1	高橋 明	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授)	-
H26. 4. 1	矢野 映	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授)	-
H26. 4. 1	竹内 繁樹	委 嘱	教授	教授 北海道大学電子科学研究科
H26. 4. 1	山本 喜久	委 嘱	教授	教授 情報・システム研究機構 国立情報学研究所
H26. 4. 1	石田 寛人	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授)	-
H26. 4. 1	長我部信行	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授)	-
H26. 4. 1	菅原 充	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授)	-
H26. 4. 1	北村 雅季	委 嘱	准教授	准教授 神戸大学大学院工学研究科
H26. 4. 1	中岡 俊裕	委 嘱 称号付与	講師 (客員准教授)	-
H26. 4. 1	小寺 哲夫	委 嘱	助教	助教 東京工業大学量子ナノエレクトロニクス研究センター
H26. 4. 1	伊藤 公平	委 嘱 称号付与	講師 (客員教授)	-

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	柴田 憲治	任期満了	講師 東北工業大学知能エレクトロニクス学科	特任講師
H26. 3.31	竹本 一矢	任期満了	主任研究員 株式会社富士通研究所	特任准教授

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
H26. 3.31	宋 海智	任期満了	教授 南京大学	特任研究員
H26. 3.31	FAURE STEPHANE JEAN FRANCOIS	任期満了	-	特任研究員
H26. 3.31	高津 求	任期満了	主任研究員 富士通(株)	特任研究員
H26. 4. 1	宮澤 俊之	任 命	特任研究員	研究員 (株)富士通研究所
H26. 4. 1	河口 研一	任 命	特任研究員	研究員 (株)富士通研究所

■昇任・着任のご挨拶

機械・生体系部門 教授
竹内 昌治



4月1日に教授に昇任いたしました。着任以来、約13年間生研の先生方や職員の皆様、研究室のメンバーなど、多くの方々に温かくご支援いただきまして、本当に感謝しております。若手研究者に自由を与え、しっかりとサポートする体制は、生研の誇りある文化だと思っております。この文化が末永く後世に続くように、微力ながらお手伝いさせていただきたいと存じます。研究に関しては、4月に立ち上がった統合バイオメディカル国際研究センターの枠組みで、引き続き工学とバイオの融合領域を開拓していきたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

機械・生体系部門/次世代育成オフィス(ONG) 講師
川越 至桜



4月1日付で機械・生体系部門/次世代育成オフィス(ONG)の講師に着任いたしました。これまで、本所次世代育成オフィスにて、本所の多岐にわたる工学研究を取り入れ、産学連携による工学教育・アウトリーチ活動を実施し、新しい活動モデルを創りだすための研究開発を行ってまいりました。今後は、これらの研究・活動を更に展開していくとともに、工学リテラシー向上に対する取り組みを学術的にも確立させ、この分野においても生研が世界をリードできるよう取り組みたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

人間・社会系部門 准教授
川添 善行



4月1日付で准教授へ昇任させていただきました川添善行です。講師として生研に着任したのは、2011年4月。東日本大震災の3週間後でした。それ以降、この社会は少しずつ、しかし、たしかに変わりつつあります。戦国時代の混乱の中で生み出された待庵、戦後復興から平和のシンボルとなった広島ピースセンター。そんな、この時代なりの空間を、私、もしくは、私の仲間たちが生み出せれば、と思っています。

都市基盤安全工学国際研究センター 講師
本間 裕大



4月1日付で、都市基盤安全工学国際研究センターの講師に着任いたしました。オペレーションズ・リサーチ手法を援用した都市・地域計画を専門分野としています。3.11地震からの復興、少子高齢化社会への対策、環境保全など、日本が取り組まなくてはならない問題が山積しているなか、生産技術研究所からその解決の糸口を、微力ながらも発信していけるよう、研究・教育に精一杯勤める所存です。どうぞよろしくお願いたします。

基礎系部門 准教授
芦原 聡



4月1日付で着任しました。以前、私は生研で助手を務めていましたので駒場IIキャンパスは慣れ親しんだ場所ですが、とても新鮮な気持ちでこの春を迎えることができました。

約7年間、私は小金井市にある東京農工大学工学部で教育と研究に携り、多くの学生と向き合う機会に恵まれました。その経験を活かし、メンバーの目がキラキラ輝く研究室を作りたいと考えています。

レーザー技術を駆使した物質の計測・制御に関する、光科学分野の研究を進めています。光科学は、物理・化学・生物といった学問の壁を越えたテーマが生まれる学際的な研究分野です。生研では皆様と有機的なつながりを築かせていただき、研究に新しい展開をもたらしたいと考えています。

機械・生体系部門 講師
松永 行子



4月1日付で付属統合バイオメディカル国際研究センターの講師に着任いたしました。これまで、細胞や高分子材料から生体組織を組み立てる組織工学・生体材料設計に関する研究に従事して参りました。創り出した組織による、再生医療などバイオメディカルに直結した研究から、生体で起こる現象の視える化による、創薬プロセスへの応用、生命現象の解明へ向けた基礎研究までをカバーし、次世代医療へと貢献していきたいと思います。どうぞよろしくお願致します。

PERSONNEL

都市基盤安全工学国際研究センター 客員教授
土橋 浩



4月1日付で、都市基盤安全工学国際研究センターに着任しました。これまで、都市高速道路の設計、建設、防災・安全、維持管理など、都市基盤の整備に取り組んできました。最近では、道路の点検・診断技術の高度化および非破壊試験技術やモニタリング技術など新技術の開発、性能評価を適切に行う戦略的マネジメントシステムの研究を進めています。今後は、これらの研究をとおして道路をはじめインフラの老朽化対策の本格実施に貢献できればと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

機械・生体系部門 客員教授
川口 勝義



4月1日付で、機械・生体系部門の客員教授を拜命いたしました。これまで、地震・津波のリアルタイムモニタリングを実現するための海底ケーブルネットワークの開発研究に取り組んでまいりました。データを取得することが困難である海域から社会が必要としている観測情報を確実に提供できる技術を確立することを目指しています。今後は海底ケーブルを用いたプラットフォーム技術と多様な海中の観測技術との融合を進め、出口を意識した新しい観測手法の確立を進めていきたいと思っています。

人間・社会系部門 客員教授
伊藤 哲朗



4月1日付で、都市基盤安全工学国際研究センターの客員教授として着任致しました。約二年前まで国家の危機管理の責任者である内閣危機管理監として、東日本大震災をはじめ、さまざまな危機に対処して参りましたが、これらの経験を踏まえて、危機管理において根底となる理念や重要な要素について研究して行くことは、将来のさまざまな危機に的確に対処していく上で欠かせないことと考えています。どうぞよろしく願い申し上げます。

革新的シミュレーション研究センター 客員教授
小野 謙二



4月より革新的シミュレーション研究センターの客員教授に着任いたしました。

現在、理研・計算科学研究機構で可視化技術研究を推進しております。産業競争力を最大化するためには、計算機科学と計算科学の知見を融合した大規模シミュレーション技術を通して、ものづくりプロセスのパラダイムを革新することが必要です。生産技術研究所では、スパコン関連のプロジェクト推進とともに、次世代技術を担う若い研究者への教育にも貢献したいと考える所存です。よろしく願いいたします。

人間・社会系部門 客員教授
天野 肇



精密機械工学専門課程を修了後、自動車メーカーで産業用ロボット、高エネルギー加工、画像処理などを生産現場に導入する業務に従事しました。その後、交通環境全般に情報通信技術や電子制御技術を応用するIntelligent Transport Systems分野が創設され、産官学の連携に注力してきました。先進技術と異分野融合が求められるITSにおいて、生研への期待は大きく、社会実装への架け橋になりたいと考えています。

マイクロナノメカトロニクス国際研究センター 教授
金 範竣



4月16日付で教授に昇任させていただきました。マイクロナノメカトロニクス国際研究センターの金範竣です。1993年韓国ソウル大学卒業以来、ほぼ21年間、生研で育てて下さいました皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。初心忘れるべからず、世界一の東大生研のために、安全・安心・健康な社会を実現する自立型マイクロセンサーネットワークの構築のために、研究や教育にさらに頑張りたいと思っています。今後ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

物質・環境系部門 講師
池内 与志穂



2014年5月より講師に着任しました池内与志穂と申します。本学化学生命工学専攻の渡辺公綱先生、鈴木勉先生のご指導のもと細胞内のタンパク質合成の研究によって博士号を取得した後、アメリカに留学し神経発生と疾患の分子機構の研究をしました。生研ではこれまでの研究を発展させて、神経のタンパク質合成の制御と関連疾患の研究を行います。生研の多様性あふれる豊かな環境で研究ができることをとてもうれしく思っています。まだ着任して日が浅いですが、すでにいろいろな先生方からアドバイスをいただき、大変感謝しています。日々研鑽に励みますので、皆様、ご指導ご鞭撻どうぞよろしくお願いいたします。

事務部長
根岸 正己



4月1日付けで本部・社会連携部から着任いたしました。六本木時代の生研で約3年間お世話になり、今回で2度目の生研勤務となります。当時から生研では工学のほぼ全領域を広くカバーする研究教育活動を展開していましたが、そのアクティビティーはより幅広く深みのあるものになっているという印象を強く受けております。事務部におきましてもこれに少しでもお応えできますよう職員一同前向きな姿勢で業務に取り組んでまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

経理課長
渡邊 仁之



4月1日付けで、財務部契約課から着任いたしました。生研は、新任採用の部局で、昭和58年経理課研究協力掛に、途中用度掛に配置換。平成2年本部へ異動するまでの7年間、六本木時代の生研にお世話になりました。

生研は、産業界との関わり合いが深いところです。特に本年度から始まる出資事業についても、生研は東大をリードして行く研究所であると思います。これからの生研に役に立てるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

A W A R D S

受賞 教員

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
機械・生体系部門	特任教授 金子 祥三 他学外者 4名	2013年度日本機械学会賞(技術) 一般社団法人 日本機械学会	高効率空気吹き IGCC (石炭ガス化複合発電)の開発	2014. 4.18
基礎系部門 志村研究室	助教 佐藤 琢哉	第55回光学論文賞 公益社団法人 応用物理学会	Directional control of spin-wave emission by spatially shaped light (Nature Photonics, vol.6, 2012)	2014. 3.18
情報・エレクトロニクス系部門	特任准教授 合田 和生	山下記念研究賞 情報処理学会	アウトオブオーダー型データベースエンジン OoODE の試作とその実行挙動	2014. 3.11
基礎系部門	教授 田中 肇	Letter of Appreciation Nature Publishing Group	Contribution for refereeing papers submitted to Nature Journals	2014. 2. 1

受賞 学生

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
機械・生体系部門 竹内(昌)研	博士課程3年 森本 雄矢	優秀論文発表賞 電気学会	積層筋肉シートによる空気中で駆動可能な筋アクチュエータの構築	2014. 2. 4
機械・生体系部門 竹内(昌)研	博士課程3年 森本 雄矢	第4回有志賞 日本学術振興会	生体組織の再構築によるロボットアクチュエータの創出	2014. 2.24
情報・エレクトロニクス系部門 喜連川研	修士課程2年 栗原 俊明	第6回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM 2014) 学生プレゼンテーション賞 DEIM フォーラム実行委員会	テキストデータにおける予定変更情報の獲得および未来に起こりうる派生事象の予測	2014. 3. 3
情報・エレクトロニクス系部門 喜連川研	博士課程3年 山田 浩之	第6回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM 2014) 優秀インストラクティブ賞 DEIM フォーラム実行委員会	128 ノード規模のストレージインテンシブクラスタ環境におけるアウトオブオーダー型並列データ処理系の性能評価と実データを用いた有効性の検証	2014. 3. 5
情報・エレクトロニクス系部門 喜連川研	修士課程2年 土屋 圭	第6回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM 2014) 学生プレゼンテーション賞 DEIM フォーラム実行委員会	マイクロログを用いた鉄道の運行トラブル発生期間及び付帯情報の抽出	2014. 3. 3
情報・エレクトロニクス系部門 喜連川研	博士課程3年 早水 悠登	第6回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM 2014) 学生プレゼンテーション賞 DEIM フォーラム実行委員会	フラッシュストレージ環境におけるアウトオブオーダー型データベースエンジン OoODE の実験的クエリ処理性能評価	2014. 3. 3
情報・エレクトロニクス系部門 喜連川研	修士課程2年 仁科 俊晴	第6回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM 2014) 学生プレゼンテーション賞 DEIM フォーラム実行委員会	概念語に関する順序付け知識のオンデマンド獲得	2014. 3. 3

受賞(学生)のことは

機械・生体系部門
竹内(昌)研

森本 雄矢

電気学会優秀論文発表賞
日本学術振興会 有志賞



この度は名誉な賞を賜り、大変光栄に思っております。本研究では、体外の任意の位置において筋芽細胞から筋肉を作製する技術を考案することで、拮抗筋構造や空気中での筋駆動を実現し、生体の筋駆動系の模倣を目指しました。

竹内教授、慶応大学の尾上講師をはじめとした本研究に助言していただいた皆様、また育志賞に推薦していただいた大阪大学の新井教授に御礼を申し上げます。この受賞を機にさらに意欲的に研究に取り組み、今後も精進して参ります。

情報・エレクトロニクス系部門
喜連川研

山田 浩之

「第6回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム」優秀インタラクティブ賞

128 ノード規模のストレージインテンシブクラスタ環境におけるアウトオブオーダー型並列データ処理系の性能評価と実データを用いた有効性の検証

この度は第6回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラムにおいて優秀インタラクティブ賞をいただいたことを大変嬉しく思います。本研究では、複数台の計算機を用いて並列にデータ処理を行うソフトウェアにおける、新しい実行方式の提案と128台の計算機からなるクラスタ環境での有効性を明らかにしました。ご指導賜りました喜連川優教授および合田和生特任准教授をはじめ、研究室の皆様深く感謝いたします。



情報・エレクトロニクス系部門
喜連川研究室

早水 悠登

「第6回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム」学生プレゼンテーション賞

フラッシュストレージ環境におけるアウトオブオーダー型データベースエンジン OoODE の実験的クエリ処理性能評価

DEIM フォーラム 2014 において学生プレゼンテーション賞を頂戴できたことを光栄に思います。お世話になった研究室の皆様はこの場を借りて感謝申し上げます。

本研究では、高速ストレージとして近年注目を集めるフラッシュストレージ環境において、我々の研究室で開発する新たなデータベースエンジンを用いることで極めて高速なデータ分析が可能であることを示しました。今後も更なる研究の発展に努めてゆきたく思います。



第10回東京大学駒場キャンパス 技術発表会発表者募集について

技術職員等による第10回東京大学駒場キャンパス技術発表会の発表者を募集いたします。

技術職員が日常業務で携わっている実験装置やソフトウェアの開発、維持管理から改善、改良の話題に及ぶ広範囲な技術的研究支援活動から得られた成果のみならず、研究・開発しようと思った動機や研究・開発途中に発生した困難をどのように克服してきたか、あるいは失敗例についても参加者全員で討論できるような技術にかかわる内容などを募集いたします。

第10回東京大学駒場キャンパス技術発表会実行委員会

また個別研修や全学研修の報告、定年を迎える方が技術職員に伝えたいことや技術職員としての集大成、また若手技術職員の5年毎の仕事内容の見直し報告、あるいは再雇用熟練技術職員が今まで身につけた技術の公開等、職務上の技術問題に限定せず、技術職員等の能力向上に役立つものであれば、どのような分野でも歓迎いたします。

みなさまの積極的な応募をお待ちしております。ご応募は下記実行委員へお願いいたします。

募 集 要 項

開催日：2014年10月21日（火）

場 所：駒場コンベンションホール（An棟 2階）

応募資格：技術職員、教務系技術職員、助手、助教、事務職員等

発表形式：口頭発表（20～30分）、誌上発表

応募〆切：2014年7月4日（金）

応募先：（第1部）小山 省司（56116）／（第2部）増田 範通（57386）
（第3部）島田 裕二（56270）／（第4部）高野 早苗（56344）
（第5部）大塚日出夫（56842）／（試作）三澤 徹（58294）
（共通）北原 直尚（56639）／（教養）菅沼 諭（46063）
（教養）滝澤 勉（46063）

実行委員長 坂巻 隆 tel 03-5452-6489 sakamaki@iis.u-tokyo.ac.jp

• PROMENADE •

The land of endless fascination

From my very childhood I have been so much intrigued and fascinated with Japan due to books and movies about this unique country. Not only culture and traditions seemed to me so much different from what we had in Russia, but even everyday lifestyle and food. As I grew up I started to suspect that you can hardly accidentally meet a samurai while walking in a park in modern Tokyo, but ever since I wanted to visit Japan.

My dream became true when Professor Yoshitaka Umeno and my former supervisor in Russia Sergey Dmitriev kindly offered to do one-year fellowship in Prof. Umeno's laboratory in IIS back in 2010. I was a Ph.D. student and idea of escaping from Russia in October right before frosty winter motivated me even more. There have been so many impressions in first few weeks since I landed in Narita airport that I could hardly find time to tell about everything even to my family. However, such things as people's kindness, beautiful nature, traditional food, architecture can not be expressed in words, one must experience and see it all. My first year was full of wonderful memories, such as climbing to Mt. Fuji, visiting China-town in Yokohama, Hanami parties in Ueno park and of course very fruitful work. However, when I was about to leave I felt that I had touched just a tip of a big iceberg, called Japan, and there

was so much more underneath to experience and see that I was not even aware of. And I was absolutely right.

It took me less than a second, one and a half year ago, to say "Yes" to Prof. Umeno when he offered me to join his laboratory as a post-doc researcher and work together on theoretical research devoted to performance improvement of solid oxide fuel cells. My second stay in Tokyo is so different, because I have to attend numerous project meetings, which I do enjoy for I meet a lot of involved famous researchers from other universities. Moreover, the meetings allow to visit different parts of Japan. I enjoyed peacefulness of Kyoto with its unique shrines, have seen eruption of Sakurajima volcano in Kagoshima, enjoyed stunning seashores in Naha (Okinawa) . Not surprisingly that my family having spent recently two weeks in Japan wanted to stay here much longer.

Let me conclude my short essay by expressing deep gratitude to all members of Umeno laboratory, both present and graduated, who helped and keep helping me continuously on work and personal matters, especially Umeno-sensei and Tsuchida-san. I can not thank you enough.

(基礎系部門 梅野研究室 特任研究員
Iskandarov Albert)



Eruption of Sakurajima



Photo together with colleagues in Umeno's group

新概念のパッシブ顕微鏡

機械・生体系部門 講師 梶原 優介



一般的な顕微鏡は、試料に対して外から照射光を当て、その反射や透過、散乱を検出する「アクティブ」な計測に基づく。アクティブ顕微鏡はすでに大きな発展を遂げており、外観検査や構造分析において強力なツールとなっている。しかしミクロの眼で見ると、金属電子の運動や結晶の格子振動、生体分子内タンパクの運動などは、そのミクロ現象の特徴を反映した光（電磁波）をわずかに放出している。そのスペクトルはほとんどがテラヘルツ（THz）領域（波長 $10\mu\text{m} \sim 1\text{mm}$ ）に存在し、波長 $10\mu\text{m} \sim 50\mu\text{m}$ はそのピークである。我々は、その微弱な THz 波を「ナノスケール」で検出し、これまで誰も知ることはできなかった全く新しい情報を得るべく顕微鏡開発を進めている。そのためには、重要な情報をかき乱す外部照射光は排除すべきで、試料自身からの光を「パッシブ」に取得する必要がある。

パッシブかつナノスケールな THz 顕微鏡を作製するためには、1) 超高感度な THz 検出器が存在しない、2) 光の波動性（回折限界）により空間分解能が波長程度に制限される、という技術的な問題があった。しかし、私がポスドク時代に所属していた東大教養・小宮山研では世界最高感度を持つ CSIP（Charge-sensitive infrared phototransistor）[S. Komiyama, IEEE J. Selected Topics on Quantum Electronics, 17, (2011) 54] を数年前に開発しており、これを利用すれば1つ目の課題は解決できる。空間分解能向上については、近接場顕微鏡技術というトリックを使えば分解能をナノスケールまで持っていきける。近接場顕微鏡では、図1のように非常に細い（先端径20nm程度）金属探針を試料に近づけて表面のローカルな光をアンテナのように散乱させてその散乱光を取得する。すると探針直下の情報だけが得られるため探針径と同程度の分解能が得られる。

開発顕微鏡によるイメージング例（観察波長： $14.5\mu\text{m}$ ）を示そう。図2（a）は GaAs 基板上に Au を蒸着した試料の光学顕微鏡像であり、中央には $5\mu\text{m}$ ピッチの微細構造がある。パッシブな Far-field（探針が無い状態）像では、光の波動性によって空間分解能が $15\mu\text{m}$ 程度に制限されるため、図2（b）のように微細構造は分解されない。しかし金属探針を近づけて散乱された THz 近接場信号をマッピングすると、図2（c）のように細かいパターンを明瞭に識別することができる。現在空間分解能は20nm（波長の $1/725$ ）にまで到達している。

パッシブな近接場信号の主要因は電子や電流の熱揺らぎである。そのため、例えば非常に空間分解能の高いナノサーモメトリーが実現できる。図3（a）は SiO₂ 基板上的 NiCr 配線パターンの光学顕微鏡像である。直流電流を印加して点線領域をイメージングすると、探針を用いない場合は図3（b）のように全体的にぼやけた像となる。しかし開発顕微鏡では、図3（c）のように NiCr 配線上の温度分布がナノスケールで観察できる。配線上のカーブにおいて内側の信号が最も大きい点は大変面白い。この理由は、伝導電子が最も抵抗値が低いパスを通るというシンプルなものであるが、実際の可視化は非常に困難である。

以上のように少しマニアックな顕微鏡を紹介したが、まだまだ発展途上であり現在応用展開を鋭意模索中である。もし面白い測定試料があれば遠慮なくお声をかけていただきたい。

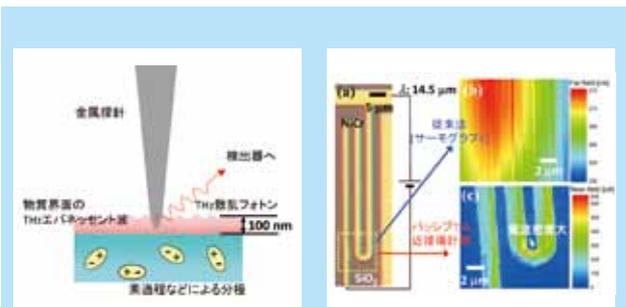


図1 パッシブな近接場計測の概念図

図3 (a) NiCr マイクロ配線の光学顕微鏡像 (b) 電圧印加時のパッシブ Far-field 像 (c) 電圧印加時のパッシブ近接場像

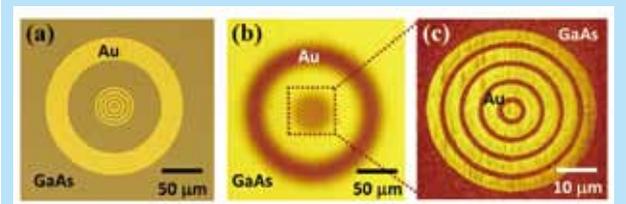


図2 (a) 試料の光学顕微鏡像 (b) パッシブな Far-field 像 (c) パッシブな近接場像

■編集後記■

「タフな東大生」ときいて巨人の木村拓哉選手が言った以下の言葉を思い出します。

「自分は「こういう選手になるう」と思ってここまで来た選手じゃない。こうやるしか思いつかなかった。それが「ユーティリティプレイヤー」、「何でも屋」で、それでもこの世界で食っていける。「レギュラーになる、エースになる」だけではない。巨人の藤田宗一投手は、中継ぎ登板だけで自分と同じ歳までやっている。それ

で飯が食える、それがプロ野球。「俺が一番うまい」と思って入団して、一番得意だった事がうまくいかない。それもプロ野球。その時にあきらめるのではなく、自分の話を思い出してほしい。投げ出す前に、自分自身を知って可能性を探るのも必要ではないか。」

負けないタフさ、負けを受け入れられるタフさ、どちらも大事だと私は思っています。

(守谷 頼)

■広報委員会 生研ニュース部会
〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1
東京大学生産技術研究所

☎(03)5452-6017 内線 56017, 56866

■編集スタッフ

小倉 賢・守谷 頼・梶原 優介

大石 兵史・本間 裕大・山田 隆治

E-mail : iisnews@iis.u-tokyo.ac.jp

生研ホームページ

<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>